

中学校英語科における 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにすることが大切です。
その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図るようにしましょう。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編」p.82 を基に作成



2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」の視点

- ・外国語を学ぶことに興味や関心をもち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたって生かそうとするかについて、見通しをもって粘り強く取り組んでいるか。
- ・自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげているか。

など

「対話的な学び」の視点

- ・他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合っているか。

など

「深い学び」の視点

- ・言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得しているか。
- ・知識や技能を活用して、情報や自分の考えなどを話したり書いたりする中で、外国語教育における「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付けがされているか。

など

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」p.200 を基に作成

特に「深い学び」の視点に関して、学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」です。「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげるようにしましょう。



「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編」p.10 を基に作成

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「生徒の学びの姿」と、その学びの姿を実現する「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが有効だと考えられます。双方を行き交いながら授業改善を行い、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成していきましょう。なお、本プロジェクト研究において、以下の資料を作成しました。授業改善を図る参考資料として御活用ください。



	生徒の学びの姿	教師の働きかけ(例)
「主体的な学び」	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握し、学習への興味や関心をもつ。 ・単元の目標や単元終末の言語活動を理解し、自己目標を立て、見通しをもって言語活動に向かう。 ・学習の進め方を自ら調整しながら粘り強く言語活動に取り組む。 ・学習内容のまとめと振り返りを行い、できるようになったことを自覚したり、今後学習を深めたいことについて考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確に設定する。 ・身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定する。 ・単元の目標や単元終末の言語活動、ルーブリックを生徒と共有する。 ・コミュニケーションのモデルを示す。 ・自己目標や学習計画を立てる場面を設定する。 ・言語活動を行う教材や方法等を複数提供する。 ・学習内容のまとめと振り返りを行う場面を設定する。
「対話的な学び」	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、題材に関する情報を収集する。 ・言語活動の中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合い、自分の考えを広げ深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話をしたり1人1台端末を活用したりするなどして、題材に関する情報を収集する場面を提供する。 ・他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う場面を提供する。
「深い学び」	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や技能を活用して、情報や自分の考えなどを表現する。 ・「見方・考え方」を働かせながら、情報や自分の考えなどを表現する。 ・情報を整理しながら、考えなどを形成し、再構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と、新たに得られた知識を言語活動で活用する場面を提供する。 ・どのような内容を、どのような表現で、どのように伝えたらよいのか、考え表現する場面を提供する。 ・自分の考えなどを再構築する場面を提供する。 ・学んだことをほかの場面や状況で活用する場面を提供する。

国立教育政策研究所「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」を基に作成

ICTを積極的に活用するなどして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点からも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図っていきましょう。なお、授業改善の具体については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた[授業改善事例【事例Ⅰ】【事例Ⅱ】【事例Ⅲ】](#)を御参照ください。



「令和5年度 個別実践研究(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)」